

選定委員による講評

■ 「芸術文化魅力育成プロジェクト」の公募も3回目となり、その趣旨が深く理解されてきたのかもしれない、今回は5件の応募があり、そのどれもが大阪に対する独自の現状分析に基づいて、傾聴すべき提案をしてくださった。そのため選出については多少の迷いもあったが、あえて大型のイベント開催を主軸とするものではなく、小さな「拠点形成」とそのネットワーク化に焦点を当てた企画提案を選出した。既存の文化施設だけに頼らず、その隙間を埋めていくようなユニークかつパワフルな中小拠点の形成、育成は、いかにも大阪にふさわしい。こうした、あえて言えば芸術文化に関わるまちの基礎体力の向上こそが、今、求められていることではないだろうか。そうした土壌から、まちの魅力は育っていく。本プロジェクトの実施が、より大きな動きの引き金になることを期待している。

■ まず、今回の5つの事業者による提案内容はいずれも高い次元で本事業の目的やテーマに沿ったものであり、その効果を十分に期待できる内容であったことは、大変喜ばしく、回を重ねてきた本事業自体の価値が的確であったことをあらためて示すものとなった。

ただそれだけに中長期的な観点からそれぞれの提案内容に優劣を決めるのは難しく、選に漏れた事業者のこれからの活動にも注目していきたい。

また、大阪の文化芸術活動の現状について、それぞれの事業者の分析には多様性があり、説得力のあるものであった。これらについては大阪府・市の今後の文化政策のあり方について、参考に値するものであることを明記しておきたい。

この度、選ばれた事業者及び応募していただいた他の事業者の真摯な提案に心から感謝し、本事業がすべての市民にとって有意義なものになることを期待しています。

■ ジャンルを超えたコラボレーション企画、若手プロデューサーのネットワーク構築、中堅プロデューサーによる若手支援、小規模拠点のネットワーク構築、バリアフリーを意識した作品上演、ノンバーバル作品の制作・上演、大阪における脱施設型の地域アートのモデル提示など、5つの事業者の提案はいずれも、大阪の芸術文化プログラムとして採択するに値するものであった。

こうした提案が、今後何らかの形で活かされ、大阪の芸術文化の状況をより豊かにしていくことを期待したい。